

姉妹交流ライブラリー 姉妹提携への道

(財)自治体国際化協会交流情報部交流親善課

近年、地方自治体の厳しい財政状況が続く、新規の姉妹提携が少なくなっていますが、そうした中で、新たに姉妹提携締結を行った自治体が、どのような過程で締結に至ったかの経緯等を紹介し、今後、姉妹提携を進める他の自治体の参考にしていただければと思います。

今回は、二〇〇七年五月にトルコ共和国のブルサ市ニルフェル区と姉妹提携を行った愛知県東海市の事例を御紹介いたします。



愛知万博が交流の契機

二〇〇五年、「地球大交流」をコンセプトに、日本万博史上最多の二二〇を超える国々が参加して開催された、愛知万博。東海市

とトルコ共和国ブルサ市ニルフェル区との姉妹都市提携は、万博の参加国を県内の自治体がもてなすフレンドシップ事業で、〇三年にトルコのホストシティとして東海市が決定したことからはスタートしました。

東海市はカゴメ(株)の発祥の地であります。創業者の蟹江一太郎は市の名誉市民であり、このカゴメが提携している企業がトルコにあったことが御縁で、フレンドシップの相手国となりました。

〇四年には、東海市国際交流協会の会長がフレンドシップ大使に任命され、駐日トルコ大使と面会。市においても大使館から講師を招いて講演会を開催するなどの交流を

進め、市内の中学生がこの年以降、修学旅行の際に大使館を訪れています。

愛知万博の開催年である〇五年には、国際交流協会がトルコ市民ツアーを企画し、二〇名の市民がアンカラにある土日基金文化センターを始め、ブルサ市のウルヤマトルコ・日本文化協会等を訪問しました。また、愛知万博における様々な交流を始め、トルコ民族舞踊団の東海市公演、国際交流協会によるトルコ人スタッフとの市民レベルでの交流が、その後の姉妹都市提携の大きな基盤となりました。なお、同年以降引き続き、国際交流協会が市最大のイベントである東海秋まつりにおいて、トルコを楽しめる企画を催しています。また、トルコ理解講座を開催し、最近では双方の派遣職員にも講師をお願いするなど、現在までに一五回を数えています。

姉妹都市の調印

東海市は、姉妹都市提携にあたって、市民による盛り上がりと将来にわたる人の交流を始めとした友好関係の継続を重視しています。また、その要件として、双方の首長による盟約書があること、交流の分野が特定の分野に限られないこと、市議会の賛同及び市民のコンセンサスが得られることなどを必要としています。

このため、〇六年には駐日トルコ大使の調整により、トルコ国内の三市に調査団を派遣し、各都市の視察を始め首長とも意見交



↑両首長が姉妹都市提携盟約書にサイン

換を行い、友好交流と提携についての調査を行いました。調査の結果、トルコ国内での交通の便のよさを始め、本市と同じく比較的若い自治体で、工業や農業が盛んであり本市と類似した点が多いこと、国際交流協会と交流のあるウルヤマトルコ・日本文化協会の協力が、今後の交流の継続に大きな役割を果たすことから、ブルサ市ニルフェル区を姉妹都市提携の相手先候補地として選定しました。

この後、市議会代表者による視察調査を実施したほか、ニルフェル区からも区長等による本市訪問を受け、友好・親密な交流と相互理解が深まる中で、姉妹都市提携の申し出を公式にいただくとともに、トルコ大使館からの勧めもあり、〇七年三月の市議会で姉妹都市提携の議決をいただき、同年五月一〇日、ニルフェル区において姉妹都市提携の調印をしました。

なお、議会では、地理的に遠い地域であること、経費がかさむこと等の問題があるとの指摘も一部いただきました。しかし、日本のみならず世界的なすう勢としてグロー

バル化の進展が加速していること、トルコ共和国は様々な文明や文化の影響を受けながら独自の文化を育ててきた国であり非常に親日的であること、またイスラム圏ではあってもEUへの加盟を目指していること、さらには古い街並みと新しい街並みが調和した緑豊かな美しい街であることなど、本市が初めて行う海外との姉妹都市提携の相手方としてふさわしく、子どもたちが交流を通じて幅の広い国際理解を深めることができ、地域活性化の一翼を担うこのことで理解をいただき、円滑に提携ができました。

提携後の交流

姉妹都市提携後の交流については、調印式に市民訪問団二〇名が同行し、改めてウルヤマトルコ・日本文化協会と交流をしたほか、具体的な交流調査のための調査団の派遣を経て、〇八年から職員の相互派遣を始めています。国際交流協会においても、同年三度目となるトルコスタディーツアーを企画し、トルコでのホームステイを体験し、民間大使としての役割も果しています。また、〇八年には本市から、〇九年にはニルフェル区から相互にハンドボールチームが訪問交流をしました。さらには、同年五月、東海市制四〇周年記念式典にニルフェル区長一行が参列され、改めて友好親善の絆を確認しました。

国においても、一〇年に「トルコにおける日本年」を展開されることとなりました。外務省が主導するこの実行委員会に東海市

長も賛助委員として参加しており、ニルフェル区において次の記念事業を実施する予定です。

一つは、ニルフェル区において建設が進められている日本庭園へ特定非営利法人国際協力アカデミーの協力を得て行う桜の植樹であり、もう一つは東海市国際交流協会及び東海市文化協会を中心とした市民訪問団により、ニルフェル区民と交流し、日本文化の紹介をするものです。

平和の基礎は、人と人との交流から始まります。交流を継続するに当たり、イスラム文化圏として食事等の配慮が必要なおことはありますが、民族が違えば文化や習慣が異なることは当然のことであり、多文化共生の考え方を身をもって知ることができている機会ととらえ、今後も行政による交流だけでなく、国際交流協会を基軸とした市民交流を柱として、ニルフェル区との良好な関係を継続、発展させてまいります。

(記述：愛知県東海市企画部秘書課長

城所 卓)

参考情報(愛知県東海市)

人口(〇九年十一月)：二〇万八千七十七人

面積：四三・三六km²

担当課：企画部秘書課

HP：http://www.city.tokai.aichi.jp/

姉妹自治体名：トルコ共和国ブルサ市

ニルフェル区

人口：約二四万人

面積：一八五・六km²